



空と海はずっとどこまでも繋がっていた

【青森公演】10月11日[金]・12日[土]・13日[日] 開演18:00～

受付:60分前、開場30分前

青森県立美術館

青森市安田近野185 TEL.017-783-5243

●全席自由・日時指定(受付順に入場整理番号を配布)

●料金/税込(当日500円増し)
前売・予約券 一般3,500円 学生2,500円

●チケット販売先

青森県立美術館ミュージアムショップ、サンロード青森、成田本店しんまち店、日弘楽器、紀伊国屋書店弘前店、八戸ポータルミュージアムはっち、ローンチケット(Lコード:23490)

[カフェ「4匹の猫」延長営業] 公演日は開演時間まで延長営業いたします。
[無料託児サービス] ご希望の方は公演日の3日前までに事務局へお申込みください。
[終演後無料送迎車] 終演後青森駅まで無料送迎を行います。
ご希望の方は公演日の3日前までに事務局へお申込みください。
(当日の申し込みは受付できませんのであらかじめご了承ください。)



■青森県立美術館 交通のご案内

◎車
JR青森駅から車で約20分
青森空港から車で約20分
東北縦貫自動車道青森I.C.から車で約5分
八戸方面から青森自動車道青森中央I.C.から車で約10分
※美術館駐車場(無料)をご利用下さい。
◎市営バス
青森駅前2番バス停から免許センター行き「県立美術館前」下車(所要時間約20分)、「三内丸山遺跡」下車(所要時間約25分、下車後徒歩5分)、「総合運動公園前」下車(所要時間約15分、下車後徒歩10分)
お問い合わせ先:青森市営バス青森駅前案内所
TEL. 017-723-1491

【仙台公演】11月24日[日] 開演14:00～

受付:60分前、開場30分前

日立システムズホール仙台

(仙台市青年文化センター)

宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 TEL.022-276-2116
仙台公演問い合わせ先:仙台市市民文化事業団 TEL.022-727-1875

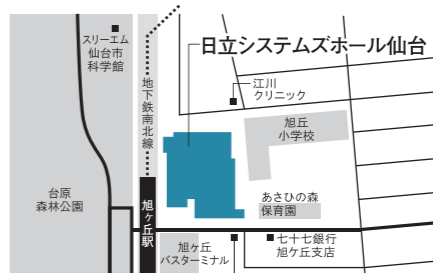
●全席自由(受付順に入場整理番号を配布)

●料金/税込(当日500円増し)
前売・予約券 一般3,500円 学生2,500円

●チケット販売先

★仙台市市民文化事業団、★イズミティ 21、★せんだい演劇工房10-BOX、仙台三越、藤崎、ローンチケット(Lコード:23491)
(★印の付いているチケット販売先で購入すると、仙台市市民文化事業団「友の会」の割引が可能です。)

仙台市市民文化事業団「友の会」会員は前売りのみ300円割引。
未就学児の御入場はできません。



■日立システムズホール仙台 交通のご案内

※なるべく公共交通機関をご利用下さい。
◎市営地下鉄
仙台駅から市営地下鉄南北線・泉中央方面行き10分、「旭ヶ丘駅」下車、東1番出口より徒歩3分

【東京公演】11月29日[金]・30日[土]・12月1日[日]

受付:60分前、開場30分前

新国立劇場小劇場 F/T13 [連携プログラム]

東京都渋谷区本町1丁目1番1号 フェスティバル/トーキョー
TEL.03-5351-3011

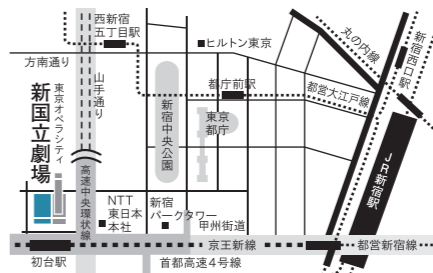
	11/29	11/30	12/1
13:00～	-	★	★
18:30～	★	★	-

●全席自由・日時指定(受付順に入場整理番号を配布)

●料金/税込(当日500円増し)
前売・予約券 一般4,500円 学生3,500円

●チケット販売先

ローンチケット(Lコード:33531)
F/Tチケットセンター(10月5日[土]10:00より取扱開始 ※一般前売のみ)
【オンライン: <http://festival-tokyo.jp>】



■新国立劇場 交通のご案内

◎地下鉄
京王新線(都営新宿線乗入)「初台駅」中央口(新国立劇場口)直結。
※東口(東京オペラシティ口)ではございません。ご注意下さい。
※京王線は止まりません。
◎車
山手通り、甲州街道交差点。首都高速4号線新宿ランプすぐ。中央自動車道・首都高速4号線よりからは、初台ランプ下車が便利です。
※劇場地下に駐車場がございます。
※なお、大型車両(車高2.1m以上)は駐車できませんので、バスなどは劇場前で降車していただきます。
※新国立劇場での公演をご観劇の際には、割引がございます。当日劇場インフォメーションにてお問い合わせ下さい。
◎路線バス
渋谷駅より以下の路線バスにて、「新国立劇場前」下車、すぐ。京王バス(渋61)(渋63)(渋66)、都営バス(渋66)

※駐輪場はオペラ通りに初台駅北口自転車駐車場がございます。
1日利用料/100円(6:00～24:00、有人時間帯6:00～8:00)

チケットにつきましては、電話、メール、FAXでの予約も受け付けております。

[TEL] 017-783-5243 (演劇「祝／言」事務局、平日9時～17時)
[FAX] 017-783-5244 (氏名、連絡先、希望公演日時、券種・枚数を記載のうえ、お送り下さい。)
[E-mail] engeki@aomori-museum.jp (氏名、連絡先、希望公演日時、券種・枚数を記載のうえ、お送り下さい。)

海外公演日程

【韓国】10月19、20日——大田:大田文化芸術の殿堂(大田グランドフェスティバル参加)
10月25日、26日——ソウル:大学路芸術劇場(ソウル国際公演芸術祭参加)
11月1日、2日——全州:韓国ソリ文化の殿堂
【中国】11月14日～17日——上海:上海話劇芸術センター(2013 Shanghai International Contemporary Theatre Festival参加)
1月10日～12日——北京:蓬蒿劇場

演劇「祝／言」写真集 発売中!

写真家 【日本】鈴木理策 【韓国】キム・ジョン



演劇「祝／言」のストーリーに寄添い、俳優、劇作家、さらには写真家たちの視点から、ロードムービーとし、もうひとつの「祝／言」として写真集を作成しました。
価格:2,000円+税
販売:株式会社 赤々舎
発行:国際交流基金・青森県立美術館

【主催】国際交流基金 青森県立美術館
【共催】(仙台)公益財団法人仙台市市民文化事業団 (韓国)韓国公演芸術センター 大田文化芸術の殿堂 韓国ソリ文化の殿堂 (中国)上海話劇芸術センター 蓬蒿劇場
【後援】青森:(株)東奥日報社 (株)デーリー東北新聞社 (株)陸奥新報社 (株)青森朝日放送 (株)青森テレビ (株)青森放送 (株)エフエム青森
朝日新聞青森総局 河北新報社 共同通信社青森支局 産経新聞社青森支局 (株)時事通信社青森支局 日本経済新聞社青森支局 毎日新聞青森支局 読売新聞青森支局 NHK青森放送局 青森市日中友好協会 在日大韓民国国民団青森県地方本部
仙台:
河北新報社 朝日新聞仙台総局 毎日新聞仙台支局 読売新聞東北総局 産経新聞社東北総局 時事通信社仙台支社
仙台放送局 TBC東北放送局 仙台放送局 仙台放送局 仙台放送局 仙台放送局 仙台放送局 仙台放送局 仙台放送局 仙台放送局 仙台放送局
東京:中華人民共和国駐日本国大使館文化部 駐日韓国大使館韓国文化院
【協力】(東京)公益財団法人新国立劇場運営財団



演劇「祝／言」

日・中・韓 国際共同制作作品

作・演出 長谷川孝治(青森県立美術館舞台芸術総監督)

日本公演2013

「青森公演」青森県立美術館

10月11日・12日・13日

「仙台公演」日立システムズホール仙台

11月24日

「東京公演」新国立劇場小劇場

11月29日・30日・12月1日

【主催】
国際交流基金
青森県立美術館

<Photographs: SUZUKI Risaku>

演劇「祝言」

作・演出 長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督） 韓国語翻訳／石川樹里

3・11

演劇人を初めとする表現者たちは心の潰れる音を聞いたそれは今まで持っていた「言葉」が瓦解していく音でもあった多くの被災者の心情を察するには、今も、大きな困難を伴うしかし日々は続く精神的な痛みは大きくなりこそすれ、小さくなり消えることはないだろう「誰かが隣にいて、あなたを承認している」というプリミティブだがシンプルで強いメッセージを東北の演劇人たちは有しているその東北の演劇人と、隣国である中国・韓国の演劇人さらには伝統芸能継承者とともに、現在を語り合い、その未来を作品制作という現場から探る何故なら、芸術こそ未来を語るにふさわしい人間の領分だからである

青森県立美術館 舞台芸術総監督

長谷川孝治

キャスト

〔日本〕

俳優／相澤一成(宮城県) なかじょうのぶ(宮城県) 佐藤隆太(福島県)

高橋淳(岩手県) 小笠原真理子(青森県)

舞踊／中村登世之丞(青森県) 田邊克彦(新潟県)

津軽三味線／齋藤沙希(青森県)

〔韓国〕

俳優／キム・ソナ(ソウル) イ・ヨンスク(大田)

舞踊／チョン・ヨンドウ(ソウル)

音楽／アンサンブル・シナウイ(ソウル)

〔中国〕

俳優／李丹(上海) 杨子奕(上海) 王小欢(北京)

国際交流基金では、舞台芸術の分野でも諸外国と様々な交流事業を行っています。日本にとって大切な隣国である中国と韓国との3カ国で、しかも東日本大震災という未曾有の災害をテーマに各国のアーティストが新しい作品を共に作るというのは、かつてない試みです。異なる政治体制、異なる文化のもとで創作活動を行うアーティストたち、芸術を取り巻く環境も一様ではありません。近くて遠い国、実際に出会い対話を重ねることにより互いの違いを認め、心を通じさせることで新しい何かが生まれることを信じながら、参加者全員がこのプロジェクトに取り組んでいます。この作品では、「地方と中央」といった点も重要なテーマになっています。震災が浮き彫りにした地方と中央の関係、その狭間で翻弄される人間の姿は、震災の有無に限らず中国や韓国にも共通する構図と言えます。音楽や舞踊、写真も交えて複雑に絡み合う人物の心理を描いていく舞台は見所満載です。今だからこそ国境を越えてやるべき舞台が、ここにあります。

国際交流基金 文化事業部アジア・大洋州チーム長

横道文司

プロデューサー／小笠原真理子(青森県立美術館)

アドバイザリースタッフ／大信ベリカン(福島県、制作・演出家)、バクグニョン(韓国、劇作・演出家)

舞台制作／(有)エポック

舞台美術／高橋淳

写真／鈴木理策、キム・ジョン(韓国)

衣装制作／青森中央文化専門学校

舞台監督／田邊克彦

音響／本多大公、寺山紀幸

照明／中村昭一郎

プロジェクション／齋藤耕平

宣伝美術／木村正幸

制作／青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会

東京公演制作協力／くわはらよしこ

東京公演記録／荒川健一(写真)、山田泰士(撮影)



<Photographs:SUZUKI Risaku>

〔プロフィール〕

長谷川孝治——劇作・演出

青森県青森市／劇作家・演出家。1978年劇団「弘前劇場」結成。すべての作品の劇作・演出を担当。1990年青森県文化奨励賞、1996年第1回日本劇作家協会最優秀新人戯曲賞、2001年文部省地域文化功労賞など、数々の賞を受賞。弘前劇場は、日本各地での公演のほか、ドイツ等での海外公演、タイ・フィリピン演劇人との共同制作などを行う。戯曲は、ドイツ語やフランス語に翻訳され、数々の再演が行われている。

2006年青森県立美術館舞台芸術総監督となり、演劇「津軽」、「ダンスアレコ青森」等の地元を主とした作品のほか、アジアを中心とした海外公演を実施。演劇作品のほか、現在は、北海道芦別市を舞台とした、大林宣彦監督の映画作品、「野のなななか」等の原作を担当。著書に「戯曲集弘前劇場の二つの場所(太田出版)」「弘前劇場の30年(寿郎社)」「さまよえる演劇人(無明舎出版)」他。

*

相澤一成——日本(俳優)

宮城県名取市／2000年「クヤマミノレイクイム(哀しみのヒットマン)」で主役を務めた他、北野武監督「Dolls」など多数の映画作品に出演。近年では、AOC C 特別賞(Social Media)受賞作品、映画「へんげ」で主演を務め、精神性の深い演技が高く評価された。

なかじょうのぶ——日本(俳優)

宮城県栗原市／1983年より東北を中心に独人芝居を始め、1987年なかじょうのぶ独人芝居事務所を結成。1997年「カイゴの島」で日本劇作家協会新人戯曲賞受賞。2002年宮城県芸術選奨受賞。2011年3月に栗原市において劇団「三ヶ年計画」を結成する。

佐藤隆太——日本(俳優)

福島県福島市／福島を拠点に俳優活動を行う。震災をテーマとした劇団満島鳥王一座、キル兄ニヤとU子さん」に出演し、震災時の福島を直接的に伝えたストーリーな演技が評価され脚光を浴びる。

高橋淳——日本(俳優)

岩手県水沢市／ピンク映画助監督を経て、劇団芸術劇場制作部 P R 映画、テレビドラマ制作進行などに従事。その後、フリーランスで舞台監督として国内外の舞台現場に従事。2006年から俳優活動を始め。

小笠原真理子——日本(女優)

青森県青森市／1992年から俳優活動を始め。2007年、青森県立美術館舞台作品「MIYAZAWA」(ソウル国際公演芸術祭参加作品「ソウルの雨」等)に出演。以後、青森を拠点に国内外の多数の舞台公演に出演。

田邊克彦——日本(俳優)

新潟県三条市／1994年から俳優活動を始め。新潟独特の流暢な言葉使いが、作品に深みと温かみをもたらし、2012年より、多くの長谷川作品に出演。

中村登世之丞「浅野清」——日本(日本舞踊)

青森県弘前市／18歳まで初代家元、坂本晴江に地唄舞の手ほどきを受け、名取として「黒髪」鑑が師を踊る。現在は中村流師範として、十世家元七代目村中虎治のもとで歌舞伎舞踊の研鑽を積み、舞台公演を行う。ピアニストでもあり、ジュリアード音楽院修士課程、マンハイム音楽大学を修了し、ソロリサイトを中心に国内外で演奏活動を行う。

齋藤沙希——日本(津軽三味線)

青森県弘前市／幼少期から津軽三味線を始め。今では少なくなかった津軽三味線の伝統を守り継いだ演奏は、津軽三味線の新星として期待されている。国内でのライブ活動の他、2013年3月には韓国2か所でアンサンブル・シナウイと共演。数多くの大会で受賞多数。

キム・ソナ——韓国(女優)

ソウル／韓国で最も人気の高い劇団の一つ「コルモッキル」所属。劇団コルモッキルは、路地を散歩している途中に家の庭先で起るような庶民の日常の物語を、淡々と、時に大胆に描く独特なスタイルを持ち、個性溢れる俳優を数多く輩出。所属2年目にして劇作・演出家であるバク・グニョンに才能を見いだされ、本作品への出演が決定。

イ・ヨンスク——韓国(女優)

大田／劇団大田・アンサンブル所属。地方都市大田で演劇活動を続け、全国演劇祭などにおいて演技賞多数受賞。2013年は、この秋公開予定の大林宣彦監督映画に出演し、歌声を披露。魂の声、魂の女優として高い評価を受けている。

チョン・ヨンドウ——韓国(振付家、ダンサー)

ソウル／西洋的な高度なダンスメソッドの修得と明確なコンセプトと同時に、東洋的な抑制された繊細な動きが高い評価を受ける。韓国を拠点に世界各地で活躍し、韓国国内にて数多くの賞を受賞した他、日本では「横浜ダンスコレクション」にて、横浜文化財団大賞ならびに駐日フランス大使館特別賞を受賞。

アンサンブル・シナウイ——韓国(音楽)

ソウル／2006年に結成した、韓国の伝統音楽を奏する若手グループ。各分野でトップクラスの実力をもつメンバーが、牙箏(アジエン)、伽倻琴(カヤグム)、打楽器、ピアノ、そしてヴォーカルを担当。韓国伝統音楽の核心である自由な即興演奏の真髄をみせる。KBS 国楽大賞など受賞歴多数。

李丹——中国(女優)

桂林／日本大学芸術学部演劇学科卒業後、日本・中国で女優活動を実施。数多くの映画、舞台作品に出演。代表作に中田秀夫監督作品「女優霊」や三池崇史監督「日本黒社会 LEVY LINE」などがある。

杨子奕——中国(女優)

上海／上海話劇芸術センター所属。民族舞踊、コンテンポラリーダンスを得意とし、多くの舞台作品に出演。2006年よりテレビドラマ、映画を中心に活動する。

王小欢——中国(女優)

北京／中央戏剧学院表演系卒業。伝統舞踊、パントマイムを得意とし、舞台、ドラマを中心に活動。最近では、北京にてフランスのパントマイム作家と共演するなど幅広い活躍を見せている。

*

鈴木理策——日本(写真)

和歌山県新宮市／東京芸術大学美術学部先端芸術表現科准教授。立教大学兼任講師。東京総合写真専門学校講師。早稲田大学第二文学部非常勤講師を務めたこともある。

受賞：2008年日本写真協会年度賞、平成18年度和歌山県文化奨励賞、2006年第22回東川賞国内作家賞、2000年第25回木村伊兵衛写真賞受賞。ロードムービーのような作風で知られる。

キム・ジョン——韓国(写真)

ソウル／ドキュメンタリー写真家。1992年フランスCOUR Technique「Image」映像専攻。1995年フランス国立芸術大学(Ecoles des Beaux-arts St-etienne)純粋芸術学専攻。1998年梨花女子大学校大学院写真専攻。

